

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190400024		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 長間		
所在地	岐阜県羽島市上中町長間1617番地		
自己評価作成日	平成21年6月28日	評価結果市町村受理日	平成21年12月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190400024&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境で、家庭的で穏やかに楽しく過ごして頂けるよう、利用者様のニーズに合わせて 支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「職員の笑顔」、「利用者本位」、「地域との協働」がホームの理念の柱である。これまでの遠出外出は、車いす利用者の参加を制限していた。しかし、職員からの提言があり、車いす利用者を含んだ利用者全員が参加することになった。散歩や買い物等の日常的な外出支援は回数が増えている。ほぼ全介助状態の利用者は、トイレでの排泄を希望している。本人の気持ちを尊重し、二人がかりでのトイレ介助を行っている。まさに「利用者本位」の個別ケアの実践である。地域との交流も本来目的にかなったものとなっている。「子ども110番の家」のお礼にと、子どもたちがホームを訪れる。避難訓練に協力した地域に住民からは、有益な提言もあった。「長間だより」は地域の9地区に配布され、ホームと地域との橋渡しをしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの、意義をふまえた事業者理念を作り、職員一同、理念を毎朝唱和し、意識して仕事に取り入れています。	ホーム独自の理念が職員にも浸透し、理念の核となる「笑顔」、「利用者」、「地域」が一体となっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入れて頂き、地域の清掃、総会等にも出席しています。地域の小学校の子供110番の家にも参加させて頂いています。又近所の皆様も野菜やお花を持ってきて下さったりして交流しています。	「子ども110番」のお礼として地域の小学生が訪れた。祭礼時には、ホームを休憩所として提供している。また、「長間だより」が地域の9地区に配布されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供みこしの時は、施設を開放して、休憩所として使用して頂いています。時々子供さん達だけで遊びに来てくれます。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の時は、狭いですが当ホームで行い、ご利用者の状況を見て頂きながら、状況報告や率直な意見を頂き、話し合いの中でサービス向上に努めています。	運営推進会議の開催は2ヶ月に1度であり、ホームからの報告事項を中心に、意見交換や質疑応答の形で進められている。	次回からは、外部評価との運動にも注力いただきたい。「目標達成計画」のモニタリングが、運営推進会議メンバーの役割となる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	羽島市の高齢福祉課の方はとても親切で、判らない時は、出向いたり、電話を掛けたりして、指導を受けています。又、必ず運営推進会議に出席して頂いています。	運営推進会議には、市の担当者が毎回出席しており、ホームの状況を熟知している。疑問点や不明なことはすぐ連絡することとしており、的確な回答が得られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害をスタッフ全員が認識しており、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束を身近な問題として受け止め、ミーティング等でも「拘束をしないケアの実践」を確認し合っている。言葉による拘束についても、職員の意識は高い。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者も職員も本社よりの絶対的な虐待禁止の指導の下、虐待は行ないません。尚、ご家族様にも虐待を行なっているといた心当たりはありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強はしておりますが、当ホームでは、まだ必要と思われる方がいないので、活用には至っていません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項を丁寧に説明を行う事はもとより、事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明をして、納得して頂いてから契約を行ないます。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、ご家族様にアンケートをお願いしています。本社が回収して、当ホームへ意見・要望等をフィードバックして頂いています。又、相談・苦情受付BOXを設け、ご意見を運営に反映できるよう取り組んでいます。	前回評価と比較して、利用者との関係が一段と緊密になった。家族アンケートも家族全員から回答が寄せられ、称賛の言葉とともに建設的な意見が多かった。	「長間だより」の他に、毎月写真付きで利用者の近況を報告する「近況報告書」が届けられており、家族の評価も高い。手間は掛かるが、継続した支援を望みたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員と話し合う機会を多く持つようにしています。又、本社より全スタッフにアンケートがあり、直接意見が言えるようなシステムにしています。本社には「みんなの心の相談窓口」も設けられています。	ミーティング時に職員から意見が出され、車いす利用者についても「遠出外出」に参加することとなった。体調に不安がなければ、全員が「遠出外出」に参加できる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は、個々の努力ややりがい、今の仕事で満足しているか等を尋ね、やりがいのある仕事の支援をしつつ、実績・勤務状況に応じた給与水準にしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社の方でも色々な研修を行なっていますが、近隣の同じ会社のグループホームと合同で、月1回のペースで社内研修を行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催の研修会に参加したり、市部会に参加したりして交流を図っています。又ボランティア活動等で他のホームにも行き色々勉強させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者のお話を傾聴させて頂き、生活状況の把握に努め、ご本人の思いや不安を受け止め、安心して頂ける様、心掛けています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至る経緯を良く聴かせて頂き、ご家族が求めている事を理解し、事業所としてはどのような対応出来るか、ご家族と話し合うようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のご希望に出来るだけ添えるよう努力しています。事業所で対応出来ない場合は、他の施設等も連絡紹介しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の仕方を教えて頂いたり、野菜の作り方を習ったり、古い歌等も教えて頂いたり、人生の先輩として敬っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご利用者を中心に考え、ご家族と話し合い、協力しながら、支える関係を築いています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで築かれていた関係を崩さないように、折に触れ、施設に足を運んで頂けるよう、電話でお願いしたり、お手紙を出したりしています。	利用者は地域出身者が多く、家族以外にも面会に訪れる人が多い。友人がふらりと自転車でやってきたり、中学の同級生が訪れたこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事場所も、気の合う人同士を側に座って頂いたり、スタッフが間に入るなどして、ご利用者が孤立されない様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院して退所された方でも、経過や近況を電話でお聞きするなどして話し合っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室で休みたい人、一人で居室で歌いたい人、皆さんで楽しく歌いたい人、さまざまですが、自由にして頂いています。意思表示の困難な方の場合は、ご本人の本位であるが、良く考え検討しています。	家族の訪問が多いことから、利用者のこれまでの生活ぶりを詳しく聞きとっている。利用者が意向を表出できない場合には、これらを参考に個別ケアの実践につなげている。	ほぼ全介助の利用者が、トイレの使用を望んでおり、二人がかりで排泄の介助を行っている。可能な限りの継続支援をお願いしたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や、ご家族のお話を聴き、生活歴やサービス利用の経過を把握するように努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、出来る事に注目し支援するように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族のご希望等を良く聴いて、ご利用者に変化があった場合等も、状況に合わせて臨機応変に対応変更しています。	前回評価での課題であった「利用者・家族の意向を反映した介護計画」へと、改善の跡が見られた。介護計画と現場ケアとのつながりもみられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙により職員同士情報を共有して、話し合いながら介護計画に役立てています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方からの面会者には、ご利用者と同室にて泊まって頂き、共に一夜を過ごされる事によって、「安心した」と喜ばれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して暮らしていける様、民生委員の方や町内会の方々の支援の意向があります。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医の他、入所前からのかかりつけ医に往診して頂く方や、ご家族と一緒に受診される方等、色々なケースがあります。	ホームと提携している内科医の他に、接骨医も週に1度ホームを訪れており、ほとんどの利用者が受診している。遠方の医療機関への通院は、家族の協力をお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアステーションとの連携により健康管理をして頂き、又色々ご指導して頂いて、早い段階で異変に気づき対応しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、協力医にまず相談し、先生の指示により、紹介して頂き入院となります。その後協力医と入院先の先生とご家族、当ホームとの連携で早期退院に向けて話し合っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、協力医、当ホームとで早い段階から、事業所で出来る事を十分説明し、方針を共有しています。	ホームで支援できる限界を家族等と話し合っ確認している。家族からは、「最後は病院で」との意向が多く、その状態になるまでは「心のケア」についてもサポートが必要であると考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や、事故発生時に備えて、応急手当や初期対応の訓練を受け、実践力をつけています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、年に2回訓練を行なっています。又地域の方々との協力体制も築いています。	前回の防災訓練では、夜間を想定した避難訓練を実施した。車いす利用者がいることから、近所の住民にも声をかけて協力を得ている。その際に、住民から有効な提案も出された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人お一人のプライバシーを守り、誇りを傷つけない様、声掛けを心掛け、社内研修、ミーティング、申し送り等で指導しています。	「長間だより」が地域に配布されていることから、利用者の写真の取り扱いにも注意を払っている。	写真や個人情報の取り扱いについては、家族の同意を取ることに他に、配布物自体(「長間だより」等)にも、同意を得ていることを記述することが望ましい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望、関心、嗜好等を、本人が選びやすいようにして、決定権をご利用者本人に委ね、職員は説明とサポートをするように勤めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはありますが、ご本人の心を尊重して、出来る範囲で自由に過ごして頂いています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の意向で決めて頂いていますが、自己決定しにくいご利用者は、職員と一緒に選んで頂いています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一応は会社のメニューがありますが、ご利用者のご希望で変更する場合があります。	専属の調理要員が配属され、職員の負担は軽減された。当番(役割)である利用者の「いただきます」の言葉を合図に、楽しい食事タイムとなった。昼食のカレーは、お替わりを要求する利用者が続出した。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	中々水分や食事を取って頂けない方には、スタッフが横に座り、声掛けをしながら、一口ずつでも摂取して頂くように支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声掛けにて行い、ご自分で出来ない方には、介助にて清潔を保持しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立つ事も難しくなられたご利用者も、ご本人の気持ちを尊重して、職員二人がかりで、トイレにて排泄介助させて頂いています。	車いす利用者の増加、高齢化、要介護度の進行等、排泄支援もこれまでとは違った方法が必要となってきた。ほぼ全介助の利用者のトイレ介助は、二人がかりで行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使用したり、なるべく薬に頼らないようにと、適度に体を動かす支援をしています。又、手づくりヨーグルトを毎日飲んで頂いています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応は決めています。ご希望とあれば、毎日でも支援させて頂いています。	ほとんどの利用者が、週に2～3回の入浴であるが、希望すれば毎日入ることも可能である。便失禁した時等は、浴室にてシャワーが使われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで過ごされたり、居室で休まれたり、居室で音楽を楽しまれる人、それぞれ自由に過ごさせて頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック用紙を作成し、処方箋を個人別に入れ、常に職員の目に付く所に置き、確認できるようにしています。又誤薬防止に三重チェックを行い、事故防止に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	言葉が不自由な方には、食前のご挨拶をお願いしたり、掃除が好きな人や洗濯畳みが好きな人には、それぞれお手伝いをして頂いています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望で、買物支援や散歩、又、月に一度は車を借りて、皆で遠くまでお出かける支援も行なっています。	前回評価と比較して、最も改善が進んだ項目である。利用者の希望を聞いて外出機会を増やしたり、職員の意見を採用して「遠出外出」に車いす利用者を参加させる等、積極的な取り組みが目立つ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一応は、ホームの方でお預かりさせて頂いていますが、お一人だけは、小額ですがご自分で持たれ、職員同行で買物を楽しまれています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は好きな時に掛けたり、掛かってくると、いつでも受けられるようにしています。字は中々書くのを嫌がられますが、日記は毎日続けて書く支援をさせて頂いています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には花があり、椅子もあるのでいつも座って眺めて楽しんでおられます。又裏には野菜を色々植えて、成長や収穫を楽しんでおられます。	高齢化が進み、要介護度は間違いなく進行している。庭や畑に出て作業をする利用者はほとんどいなくなった。その分、ホーム内での生活を充実させようと、様々な場面を想定しての快適な居場所作りを行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や、廊下の突き当たりのソファ、リビングのソファ、食卓の自分の椅子等自由に過ごされています。玄関や、廊下の突き当たりのソファ、リビングのソファ、食卓の自分の椅子等自由に過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご自分の馴染みのタンスやステレオ等を持ち込まれ、自由に心地よく過ごして頂いています。	かつて、マスコミが「昭和の左甚五郎」と取り上げた男性利用者は、今回も居室で記念のアルバムを見せてくれた。訳あって、彫刻の作品は何一つ残っていないが、アルバムの中に彼の生きてきた証が詰まっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレ等が判らない方がいらっしゃるので、居室のドアには、大きな名前札やお花等で判りやすくしています。		